

①施策の目的等

施策の名称	I-1-3 ソフト系IT産業の振興
目的	。多様化、高度化する顧客ニーズに対応できる情報産業群の形成に向け、IT技術者を育成するとともに、大都市からの業務の獲得を支援し、県内のソフト系IT産業の技術開発力・競争力の強化、ビジネス拡大を目指します。

②成果参考指標の目標（実績）と施策の現状、及びその評価

数値目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	数値目標	年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
ソフト系IT産業の技術者数	目標値	1,260.0	1,324.0	1,400.0	1,475.0	1,550.0	人	ソフト系IT産業の年間売上高	目標値	190.0	240.0	254.0	267.0	280.0	億円	
	取組目標値								取組目標値							
	実績値	1,284.0	1,381.0	1,441.0					実績値	228.0	230.4	231.0				
	達成率	102.0	104.4	103.0	-		%		達成率	120.0	96.0	91.0	-		%	
Uターン支援により確保した技術者数（4年間の累計）	目標値	(20.0)	20.0	40.0	60.0	80.0	人		目標値							
	取組目標値								取組目標値							
	実績値	(25.0)	21.0	37.0					実績値							
	達成率	125.0	105.0	92.5	-		%		達成率	-	-	-	-		%	
定性目標	平成28年度～平成31年度															
成果参考指標の実績等の補足説明（任意記載）																

③評価時点での施策目的に対する現状

評価時点で施策目的に対する現状 (客観的事実・データなどに基づいた施策の現状や取組状況)	<p>○直近3年間で売上額と雇用人数とも順調に伸びている。※H29年度数値データがH30.9月上旬に公表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・売上額 平成26年度：227.1億円、平成27年度：228.0億円、平成28年度：230.4億円</li> <li>・県内従業員数 平成26年度：1,249人、平成27年度：1,284人、平成28年度：1,381人</li> <li>○Uターン支援により、技術者を一定数確保しているが（平成27年：25人→平成28年：21人→平成29年：16人）、人材不足への充足は不十分。</li> <li>○IT企業の新規立地や事業拡大件数は、平成29年度は4社増加し、平成19年度からの累計で48社になった。</li> <li>○平成29年度は、しまねソフト研究開発センター(以下「ITOC」という。)を中心にIoTの要素技術となる新たなプログラミング言語を開発(mruby/c)し、この新技術を活用し新たにビジネス創造に取り組む県内企業がでてきた。</li> <li>○ITOCの利用状況としては、製品・サービス開発等の助成金(H27-17件,H28-21件,H29-23件)など、年々多くの企業が活用している。</li> </ul>
---	--

④総合的な評価

評価時点での総合的な評価  A:順調に進んでいる B:概ね順調に進んでいる(見直す点がある) C:あまり順調に進んでいない	判断	その理由
	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内IT企業における都市圏での受注獲得が好調であり、事業拡大や県内への企業進出によって、ソフト系IT産業の技術者数、売上高とも増加傾向で推移している。</li> <li>・首都圏などでの即戦力IT人材確保の取組みにより、ソフト系IT産業の技術者数は、平成28年度に比べ4%増となったが、今後、全国的な技術者不足の状況の中で、人材確保は厳しさを増すと見込まれる。</li> </ul>

⑤課題の認識

(1)平成31年度末の施策目的の達成状況(予測) A:達成できる B:概ね達成できる C:達成は困難	判断	その理由(④の「判断」と異なる「判断」の場合のみ記載)
(2)施策の目的達成に向けての課題	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として売上額は伸びているが、下請型(多重下請)の企業が依然として多いため、1件ごとの契約単価が都市圏に比べて低くなっており、この業態から収益性の高いビジネス(自社製品の開発と県内外への販売)への転換を図ることが課題。企業による、新たな技術・ノウハウの習得と連動し、事業化に向けて一歩踏み出す取組みを拡大していくことが必要。</li> <li>・市場ニーズを捉え効果的にIT技術を活用していくために、県内IT企業が、県内の他産業の状況を理解する機会をつくり、他産業と連携し新たなサービス創出を目指すロールモデルに発展させていくことが必要。</li> <li>・また、中長期的な戦略を持ってビジネス展開を行っていく企業を育成していくことが重要であり、特に県内IT企業の経営者に、AI・IoTを活かした事業のモデル(手順)への理解を促す必要がある。</li> <li>・企業ニーズに応じたIT人材を確保するため、県外からの即戦力人材確保に加え、将来にわたり地域から安定的に人材を輩出できるよう育成していくことが必要である。</li> </ul>

⑥今後の取組みの方向性

課題解決に向けての今後の取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営者向け、AI・IoTを活かしたビジネスを創出するきっかけとするため、普及啓発セミナーを定期的で開催する。</li> <li>・他機関(研究機関、コミュニティ)とも連携して、高度な技術講習会を開催し、データサイエンティストを育成する。</li> <li>・IT企業が他産業の状況、課題を理解し、且つ関係を構築できる異業種交流会を開催する。</li> <li>・異業種から現場課題に関する相談を受け、県内IT企業に紹介する財団・県の窓口機能を強化する。</li> <li>・IT産業の業態に応じ、次の段階にステップアップするための細やかな支援を展開する。例えば、より上流工程(元請けに近づく)のビジネス獲得を目指す技術力向上や業務ノウハウの蓄積の支援を行う。自社商品の開発・販路拡大や、他産業と連携し新たなサービス開発を促す支援を強化する。</li> <li>・しまねソフト研究開発センターが取り組む先駆的研究(機械学習・AI、IoT)の成果を県内企業に技術移転し、事業化を支援する。</li> </ul>
---------------------	---

施策評価シート別紙2(事務事業一覧)

施策の名称	I-1-3 ソフト系IT産業の振興
-------	-------------------

(単位:千円)

	事務事業名	目的(意図)	前年度 事業費	今年度 事業費	所管課名
1	しまねIT産業振興事業	技術力・開発力の向上等による事業拡大及び技術人材育成・確保	291,441	338,099	産業振興課
2	デジタルコンテンツ産業振興事業	事業が拡大し、デジタルコンテンツを活用したビジネスが進展する	3,648	10,025	産業振興課
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
39					
40					